第 6 回

岩手中部水道企業団議会定例会

会 議 録

平成 28 年 2 月 5 日 開会

平成 28 年 2 月 5 日 閉会

岩手中部水道企業団

第6回岩手中部水道企業団議会定例会会議録

1 開会 平成28年2月5日 (金曜日) 午後2時50分

2 閉会 平成28年2月5日 (金曜日) 午後4時45分

3 議事日程

日時 平成28年2月5日 (金曜日) 午後2時50分開議

場所 花巻市交流会館交流スペース

第1 会議録署名議員の指名

第2 会期の決定

第3 業務報告並びに施政方針

第4 現金出納検査及び定期監査の報告

第5 一般質問

第6 議案第1号 平成27年度岩手中部水道企業団水道事業会計補正予算(第1号)

第7 議案第2号 平成28年度岩手中部水道企業団水道事業会計予算

第8 議案第3号 岩手中部水道企業団人事行政運営等の状況の公表条例の一部を改正する
条例

4 本日の会議に付した事件

議事日程のとおり

5 出席議員(12名)

1番	松田昇君	2番	高橋修君
3番	武田勝君	4番	星敦子君
5番	若柳良明君	6番	高橋勤君
7番	伊藤源康君	8番	及川誠君
9番	佐々木純子君	10番	鷹木嘉孝君
11番	鈴木健二郎君	12番	星俊和君

6 欠席議員(なし)

7 会議録署名議員

11番	鈴木健二郎君	1番	松田昇君
-----	--------	----	------

8 説明のため出席した者

企 業 長	高 橋 敏 彦君
副 企 業 長	上 田 東 一君
副 企 業 長 (代 理)	藤 原 博 視君
副 企 業 長	及 川 義 明君
監 査 委 員	本 田 潔君
”	戸 來 喜美雄君
局 長	菊 池 明 敏君
総 務 課 長	瀬 川 光 雄君
経 営 企 画 課 長	高 橋 誠 雄君
給 配 水 課 長	高 橋 卓 也君
工 務 課 長	及 川 賀 生君
浄 水 課 長	小 田 島 久 幸君
経 営 企 画 課 課 長 補 佐	久 保 田 幸 喜君

9 構成市町出席者

北上市生活環境部長	松 岡 裕君
花巻市市民生活部長	熊 谷 嘉 哉君
紫波町建設部長	藤 滝 学君

10 職務のため議場に参加した職員

書 記 (総 務 課 課 長 補 佐)	小 原 信 也君
書 記 (総 務 課 総 務 係 長)	吉 田 修君

午後 2時50分 開会

○議長（星 俊和君） ただいまの出席議員数は12名であります。

定足数に達しておりますので、これより第6回岩手中部水道企業団議会定例会を開会いたします。

午後 2時50分 開議

○議長（星 俊和君） 直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事は、お手元に配付しております議事日程により進めます。

日程第1 会議録署名議員の指名

○議長（星 俊和君） 日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、会議規則第36条の規定により、議長において指名いたします。

11番鈴木健二郎議員、1番松田昇議員を指名いたします。

日程第2 会期の決定

○議長（星 俊和君） 日程第2、会期の決定を議題といたします。

お諮りいたします。今期定例会の会期は、本日1日間といたします。これに御異議ありませんか。（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（星 俊和君） 御異議なしと認めます。

よって、会期は本日1日間と決定いたしました。

日程第3 業務報告並びに施政方針

○議長（星 俊和君） 日程第3、業務報告並びに施政方針について、企業長から発言を求められておりますので、これを許します。企業長。

○企業長（高橋敏彦君） 第6回岩手中部水道企業団議会定例会の開会に当たりまして、平成27年度の業務報告並びに平成28年度の施政方針を申し上げます。

今年度も残すところ1カ月余りとなりましたが、事業統合2年目の当企業団は、構成市町及び議員の御協力により、管路の更新工事や浄水施設の整備など予定している事業につきましては順調に進捗してきております。

まず、岩手中部水道企業団水道ビジョンについて申し上げます。

本ビジョンは、当企業団として初めて策定するものであり、目指すべき50年先を見据えた基本理念や目標、取り組みの方向性や取り組み施策について示したものであります。このたびビジョン案がまとまりましたことから、先ほどの議会全員協議会において御説明申し上げ、意見をいただいたところでございます。今後は、広く住民の方々からの御意見をお聞きするためのパブリックコメントを実施し、その御意見をビジョンに反映させ、年度内の作成を目指して取り組んでまいりたいと考えております。

次に、古館水源系施設更新工事の進捗状況について申し上げます。

古館浄水場の浄水施設は、昨年10月1日から、紫波町古館、日詰地域に給水を開始しておりますし、配水池につきましても調整を終えまして、昨年11月から供用開始しているところでございます。

工事の状況であります。旧揚水場の解体工事と駐車場整備が完了し、附帯工事を残すのみとなっております。また、3月11日には、同浄水場において落成式をとり行う運びとなっております。

次に、危機管理センター用地取得について申し上げます。

北上市藤沢15地割地内の藤沢配水池の隣接地に建設を計画している危機管理センターにつきましては、今年度、重要な資産の取得として計画しておりました8,789平方メートルの用地を昨年10月に購入したところであります。今後、危機管理体制の拠点として、さまざまな御意見を伺いながら、危機管理センターの整備に向けて準備を進めてまいります。

次に、平成28年度の施政方針を申し上げます。

平成28年度は、水道ビジョンに掲げる実施施策の実現を目指し、各種計画策定に向けた取り組みを進めていくほか、水道施設適正化事業における各事業を計画的に実施してまいりたいと考えております。

また、水道事業マネジメントシステムレビューを実施し、設定した主要な水道事業ガイドライン、いわゆるKPIの目標達成に向け、事務事業の効率化や生活基盤施設耐震化等交付金を活用した事業の実施に努めてまいります。

主な事務事業としては、水安全計画の策定に伴う基礎調査業務を委託し、同計画の早期策定を目指すほか、漏水調査等により発見された漏水箇所の修繕や配水ブロックの見直しときめ細かい配水流量の管理を行うなど、有収率の向上を図ってまいります。

主な建設改良事業は、平成28年度から2カ年で施工する北上川浄水場高圧受電設備更新工事に着手するほか、各浄配水施設の状況を集中監視するための監視装置増設工事や経年化施設の

更新工事などを施工します。また、水道水の安定供給に向け、引き続きバイパス管布設工事や東和地区送配水管布設工事を進めてまいります。配水管の更新につきましては、3市町合わせて36カ所、延長22.67キロメートルを計画しており、経年管の更新を進めてまいります。

以上、平成28年度の主要計画事業について御説明申し上げましたが、当企業団といたしましても、これまでに引き続き議員各位並びに構成市町住民の皆様の御理解と御協力をいただきながら、安全・安心な水道水の安定供給に努めてまいります。

終わりに、北上市議会議員の任期が本年3月末をもって満了となり、現在の議員構成での企業団議会定例会は本日が最後となりました。企業団議会議員として、在任中、企業団の運営に特段の御理解と御協力を賜りましたことに心から御礼を申し上げます。

特に、平成26年4月から、用水供給と末端給水の垂直統合と3自治体の水平統合を同時に実現しましたことは、最大の喜びであり、改めて心から敬意と感謝を申し上げる次第であります。

議員の皆様方には、どうか健康管理に十分御留意いただき、水道事業の向上、発展のためにますます御活躍されますことを祈念申し上げまして、業務報告並びに施政方針といたします。

○議長（星 俊和君） ただいまの報告に対する質疑に入ります。（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（星 俊和君） これをもって質疑を終結いたします。

日程第4 現金出納検査及び定期監査の報告

○議長（星 俊和君） 日程第4、現金出納検査及び定期監査の報告を行います。

書記をして報告書の朗読をさせますが、報告書の題名と検査の結果のみを朗読させます。書記。

○書記（総務課総務係長）（吉田 修君） 現金出納検査について報告をいたします。

岩手中部水道企業団水道事業会計平成27年9月分から11月分、現金出納検査の結果について、検査の結果。会計処理は、会計諸原則に基づいて行われており、諸帳簿、関係伝票、証憑書類及び指定金融機関等の現在高をそれぞれ照合した結果、いずれも正確であり、出納事務は適正に行われていると認めた。

次に、定期監査について報告いたします。

平成27年度定期監査結果報告書。監査の結果、事務事業の執行状況はおおむね良好と認められた。なお、事務処理において改善を要する事項については、口頭により指摘し、改善を求めた。これらの指摘事項については、適切な措置を講じるとともに、周知を徹底し、今後の事務処理に万全を期されたい。

以上でございます。

○議長（星 俊和君） ただいまの現金出納検査の報告に対する質疑に入ります。（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（星 俊和君） これをもって質疑を終結いたします。

日程第5 一般質問

○議長（星 俊和君） 日程第5、一般質問を行います。

通告に従い、順次質問を許します。11番鈴木健二郎議員。

○11番（鈴木健二郎君） 水道ビジョンにおける水運用の見直しに関して質問をいたします。

昨年の10月22日の水道企業団議会の全員協議会で、当局は、水道ビジョンの策定方針について説明をいたしました。この中で、水運用の見直しの背景について、配水量の激減、有収率の向上、そして施設の有効利用を上げ、その背景を受けて水道ビジョンに反映すべき事項を定める考えを打ち出しました。そして、これらを背景とした検証を行い、ケース1から3までの結果を導いております。

ケース1は、現行計画に沿ったケース、すなわち統合浄水場の建設を行い、花巻の北上川水源を廃止するなどのケースであります。

ケース2は、現状施設を有効利用としたケース、これはその名のとおり、統合浄水場の建設をしないで、今ある施設を融通し合うというものであります。

ケース3は、計画見直しのケースで、統合浄水場建設を中止し、その分、中部浄水場の急速ろ過系統の増設、そして、配水量の状況に応じて、花巻・北上川水源を廃止するなどのケースであります。

配水量の減少では、1日最大配水量が平成20年度計画で実績の差が3,688トン、25年度で同じく4,409トン、26年度で同じく6,251トン、それぞれ減少となっております。

一方、有収率は24年度の80.69%、25年度で79.74%、26年度で81.15%のそれぞれ実績となっております。

そこでまず伺いますが、これら配水量と有収率の変化を、今後10年間、どのような見通しを持っているのでしょうか。それから、これらの見通しをもとにビジョンづくりが進められると思いますが、そこで公表すべき事項としては、施設、これには配水池、送水管のループ化、中部浄水場を含めた各浄水場等がありますが、そのあり方、そして、財政計画の見通し等があると思います。これをどのように考えているのか、伺います。

3点目は、前段で申し上げました昨年10月22日の全員協議会で説明があった資料の検証ケース3において、統合浄水場建設計画中止に伴う危機管理センターの施設整備について、どのように考えておられるかであります。私は早期に整備すべきと考えますが、あるべき機能、建設場所、時期等をどのように考えているか、伺います。

以上であります。

○議長（星 俊和君） 企業長。

○企業長（高橋敏彦君） 鈴木健二郎議員の御質問にお答えいたします。

最初に、水道ビジョンにおける水運用の見直しについて、総配水量と有収率に係る今後10年間の見通しをどのように持っているのかというお尋ねであります。総配水量につきましては、計画期間初年度の平成28年度は2,470万7,000立方メートル、計画最終年度の平成37年度は2,294万立方メートルとし、10年間で176万7,000立方メートル減少する見通しであります。

主な要因といたしましては、今後の人口減少、節水機器の普及による配水量の減少のほか、経年管の更新、漏水箇所の修繕に伴う有収率向上による配水量の減少を見込んでいるところであります。

また、有収率につきましては、28年は82.1%、37年度は86.5%とし、4.4%向上すると見通しております。有収率向上は水道事業者として最も重要な指標の一つであることから、経年管路の更新を計画的に進めるほか、配水ブロックの再構築を行った上で、漏水調査による漏水多発地域の特定をし、漏水箇所の早期修繕に努めるなど、目標値達成に向けた取り組みを推進してまいります。

次に、総配水量等の変化を受けて、ビジョンづくりで考慮すべき事項として、施設財政計画の見直し等があると思うが、どのように考えているかのお尋ねであります。施設の見直しについては、当初計画していた統合浄水場建設、赤沢浄水場増設、新三竹堂配水池建設を中止するほか、広域ループ管のルート変更、岩手中部浄水場の機能増強等を計画しております。

これらの変更の要因は、より効果的な水運用を見出せたこと、位置エネルギーを生かした送水ができる岩手中部浄水場を最大限有効活用するとともに、今後の総配水量減少を見通した浄配水施設のダウンサイジングによるものであります。

また、財政計画の見直しについては、給水収益の減少に見合った費用の算定、アセットマネジメント実施に伴う経年施設整備事業費の見直し、広域化事業計画の継続事業と廃止事業の仕分けを行い、新たな事業を加えた水道施設適正化事業の実施可能な財務シミュレーション、給水収益に対する企業債残高の割合を抑制するための方策等が上げられます。

次に、統合浄水場建設計画中止に伴う危機管理センターの施設整備について、そのあるべき機能、建設場所、時期についてのお尋ねであります。危機管理センターのあるべき機能として、給水拠点機能、施設の集中監視機能、緊急時や災害時に対応した非常用設備の設置、マンパワー、給水車、備蓄資材の集約・確保等が必要であることは、これまで議会等で御説明申し上げてきているところであります。

また、建設場所につきましては、危機管理センター用地として購入した藤沢配水池に隣接した土地を前提に考えておりますが、危機管理センターを整備するためには、必要な機能の再精査、企業団としての組織体制、災害時の初動体制も含めた業務委託のあり方等、まだまだ解決しなければならない課題があるものと認識しております。

現在、必ずしも危機管理体制が万全とは言えない状況下で業務を行っていることから、危機管理センターの建設は急務であると考えておりますが、今後、課題解決に向けた取り組みを進め、危機管理センターの早期建設に努めてまいりたいと考えております。

以上であります。

○議長（星 俊和君） 11番鈴木健二郎議員。

○11番（鈴木健二郎君） 一般質問の通告は、全協の説明がある前に出しておりますので、全協で説明があった部分があるわけですが、改めてお聞きすることもあります。

まず、配水量の件であります。全協資料で総配水量は年間の予定でありますけれども、去年の10月22日の資料で私見ますと、1日最大で、全協で申し上げた6,500トンの減という中身ですが、これはあくまでも最大ということですので、総配水量という数値から見れば、もっと下のほうじゃないかなと。先ほどの全協での資料では年間の総配水量で出されておりますので、改めてお聞きしますが、1日の総配水量はどれほどになるというふうに計算しておりますか。例えば28年度の場合でいいです。

○議長（星 俊和君） 経営企画課長。

○経営企画課長（高橋誠雄君） 全協資料の16、17ページの中の2の総配水量、28年度2,470万7,000立方メートル、これを総配水量ですので365日で割りますと、1日平均が6万7,690立方メートルという計算になります。

以上でございます。

○議長（星 俊和君） 11番鈴木健二郎議員。

○11番（鈴木健二郎君） そうすると6万トン。

○経営企画課長（高橋誠雄君） 6万7,000トンです。

○11番（鈴木健二郎君） そうすると、6万7,000トンということで捉えていいですか。

その傾向は非常に難しいと思いますが、10年間の需要の見通しというのは難しいと思いますが、10年間で、先ほど企業長がおっしゃいましたけれども、136万トン減るんだということですよね。むしろ私は、やっぱり水道水を利用してほしいというふうには思いますし、人口も減らないで、そして、各家庭でも安くておいしい水を使ってほしい。これは当局も議員の方もそのとおりだというふうに思いますけれども、この136万トン、10年間で減っていくんだということを、これはやっぱり避けられない状況と考えているのかですね。これは各自治体の人口の増の施策とも関連はあると思いますし、それから生活様式もさまざま変わっていく、それから水に対する考え方も変わるということですから、その点についてはどうお考えかということですね。

そして、私は今のままでいくともっと減っていくんじゃないかと、この推計は甘いんじゃないかというふうに思わざるを得ません。ですから、その場合の対応としてどのようにお考えかということですが、この2点についてお尋ねします。

○議長（星 俊和君） 局長。

○局長（菊池明敏君） 鈴木健二郎議員の質問にお答えします。

総配水量については、1日平均配水量というものがございまして、年間の総配水量を1日当たりですればどのぐらいだというのが、先ほどの6万7,690だと。それがだんだん減ってくるという傾向は、やはり現実にも減ってきているわけですし、なおかつ人口推計をした結果、そこに掛ける1人何トン使うかという計算をここでしておりますし、人口推計につきましては、コーホート要因法を使いまして人口推計をしておりますので、推計の方法としてはこれ以上ないのかなと思っております、木で鼻をくくったような答えにしかならないですが、人口推計と使用水量の掛け合わせでもって総配水量を決定しているということで、こういう減っていく推計になっているということになります。

水が6,200トン減ったというのは、最大配水量が計画値より低かったということで、なぜそういうことになったかといいますと、統合前ですので、全体の最大配水量というのがつかめなかった現実がありまして、であれば、全国平均的な平均配水量と最大配水量の差の部分を負荷率というんですが、その分を全国平均値ぐらいのところで見ざるを得なかったと、24年度の計画はですね。ふたをあけて統合してみても、実際に運用してみたら、その差が余りなかったという結果が出ておりまして、その分が減った分として6,200トンだと。

ただ、最大配水量というのは1年に1日しかないわけですが、その1日のために水道という

のは、全施設、そこをぎりぎり賄えるだけの水量を用意しなきゃいけないというのが水道の根本でございますので、そのために水量を最初に見込んだ24年度のところでの差分をちゃんと見込んでの計画だったんですが、実際にふたをあけて運用してみて、実際の最大配水量を見たら、見込んでいたよりもずっと低かった、6,200トン低かったというのが現実であります。

負荷率という難しい話になりますが、そうなりますと、ここら辺は現実の数値ですと、負荷率が90%ということでありまして、90%ということは、都会と同じぐらいの負荷率ということで、眠らないまち、要するに夜と昼との水量の差が余りない地域になってきているということ、最大がそれほど平均よりも上回らないという状況になってきているということです。

○議長（星 俊和君） 11番鈴木健二郎議員。

○11番（鈴木健二郎君） 簡潔でいいですので、答えていただきたい。

それで、率直にお聞きしますが、要するに最大量が激減したという説明だったんです、去年の10月に。それで、統合浄水場は中止せざるを得ないと、見直しせざるを得ないとお聞きしたんですけど。

お聞きしますと、そうでもないですということで、減るのは減るんですが、6,000トンというのは最大ですから、それで統合浄水場は要らないですよというのは、ちょっと私はすぐそこには行きつかないんですが、しかも、中部浄水場は5,000トン増強するということですね。あとは細かい浄水場、配水池の増設、廃止はありますけれども、その理由づけを簡潔に話してほしい。なぜ統合浄水場は要らないという根拠になったのかということ。

○議長（星 俊和君） 給配水課長。

○給配水課長（高橋卓也君） 統合浄水場を廃止した理由として、26年度の1日最大配水量が計画した値よりも6,000トンほど少なかったと。これは計画段階では、過去の3つの市町の状況それぞれの最大を考慮して26年度の値を予測しておりました。実際統合してみると、日平均と日最大の差がそれほどなかったと。これが統合して初めてわかったことです。

それからもう1点、中部浄水場の状況とありましたが、これは浄水能力をふやすという意味ではなくて、本来の3万5,500トンを出せるように、量をふやすのではなくて、3万5,500トンを出せるような安定した処理ができるように必要な整備を計画しているものでございます。ですから、中部浄水場は5,000トンふえるわけではなくて、今処理が難しい冬の間も3万5,500トン出せるように、必要な機能を計画するという内容でございます。

○議長（星 俊和君） 11番鈴木健二郎議員。

○11番（鈴木健二郎君） 私も理解しました。

それと、この施設を今後見直しされると思います。いわゆるバイパスループ管、これが北上川の東側を通過して、今ある送水管でループをつくるということでしたが、説明だと、ループ管を東から西側につくるんですね。そして、小さいループに分けて危機管理体制にも対応するんだということですので、これに伴って、花巻エリア、紫波エリアの部分が、これまで説明がありましたように、施設を新たに必要な部分を増設する必要がある。それから、廃止するものとか、それは出てくるんだろうなというふうに思いますけれども、私はかねがね大迫とか東和、紫波のほうも含めて、良質な水源がたくさんあるというふうに申し上げてきた経過もあるわけですが、そういう水源を最大限生かしていくということですね。そして、そのループを西側に持っていったことによって、北上川東側の水源が生きてくるだろうというふうに思うんですね。

言いたいのは、これは当初から一定の予測というか、計画できたんじゃないですか。平成24年度ではこうじゃなかったわけですよ。ですから、現在の水源利用と、それから北上川の西に持ってくることによって、財政的にも軽減されますよね。これは24年度の計画の段階では思いつかなかったというか、そういう考えには及ばなかったということで捉えていいんですか。検証でわかったのかということか、そこをちょっとはっきりさせてください。

○議長（星 俊和君） 局長。

○局長（菊池明敏君） 議員おっしゃるとおりで、24年の計画時点では、水源水量と、また広域的な考え方が完全にリンクしていなかった部分があると。それから、その後に起きた気象変化によりまして、例えば田瀬ダムにアオコが初めて出たとか、去年は淡水赤潮も出たとか、そういう状況もまた新たに発生してきた部分でございまして、水源の全部の見直しを一回かけたということで、そうした結果、東側の水源で使えるものはそのまま使って、考えていたよりも水質の厳しかった部分については、もしくは水量の厳しいものについては、そこを廃止して、きれいな水を持ってくる体制をつくるといった場合に、東側を渡る必要がなくなったというのが実際のところでした。であれば、水管橋とかいう橋をかけないで安くして、なおかつ小さいループを順次つくっていくと。小さいところがあれば、そこでもうループが完成しまして、小ループ、小ループ、小ループで順次作っていけることができるということで、ずっと最後までつながるまで供用開始が何年もできないという状態を解消しようということで、今回見直したということでございます。

○議長（星 俊和君） 11番鈴木健二郎議員。

○11番（鈴木健二郎君） その理由についてもわかりました。

時間も限られているでしょうから、危機管理センターについてお聞きをいたします。

企業長からは、早期に進めていくと。機能についてはわかりましたので、やっぱり危機管理センターの整備というのは一刻も猶予できない部分がありますので、災害状況を見ますと、これは求められていくんだろうなというふうに思います。土地の取得はもうされたようで、それとしては配水池だろうなというふうに、企業長の先ほどの答弁で出ましたとおりなんですが、今後の危機管理センターの整備のスケジュールはどういうふうに考えているのか。10年間で目標年次で終わればいいということでもないだろうと私は思いますので、これは最優先をして整備すべきものではないかというふうにと思いますが、これについての考えはどうでしょうか。

○議長（星 俊和君） 経営企画課長。

○経営企画課長（高橋誠雄君） これもビジョンの概要版にありますとおり、危機管理センターにおきましては、平成28年度から平成33年度までということで計画しております。今後の予定でございますが、28年度は、まず企業団内部の、危機管理センターの望ましい姿といいますか、具体的には集中監視体制の明確化、これは直営とか委託とかのどう取り組んでいくのかということの内部の検討を進めたいと思いますし、また集中監視システムの内容も制御まで必要なのか、それとも監視だけでいいのかとただただでもお金が違ってまいりますので、その辺も本当に危機管理センターの望ましい姿、機能というものを企業団の内部でもう少し時間をかけたいなと思っております。

その後、基本設計に入りまして、実施設計、そして工事着手というふうに考えております。

一応今考えられていますのは、今言ったように、28年度は内部で詰めた後、基本設計に着手し、29年度はできれば実施設計に入って、30年からは工事に入っていきたいなと思っております。長くかかるというふうに思うかもしれませんが、後半のほうは外構工事とか、そういったものですので、最終的には平成33年までということでビジョンを進めてまいりたいと思っております。

以上です。

○議長（星 俊和君） 11番鈴木健二郎議員。

○11番（鈴木健二郎君） 33年ですと、あと6年ですよ。計画の6割近くかかる、期間的には。やっぱり住民の感覚からすれば、もうちょっと早くできないのかというのが率直な声じゃないかなと。これからパブコメもやるようなんですけれども、やっぱり今求められているのは、安心・安全と当局が言われているとおりなわけですから、やっぱり安心・安全が最優先して、大前提だというふうに思うんですよ。それぞれが今後の議論とか、財政的な状況も当然あると思いますけれども、その辺は当局に鋭意奮闘いただいて、まさに名実ともに安心・安全の水

道水づくりに頑張っていたきたいなというふうに思うところでありますので、企業長、最後に一言いたきたいですが、お願いします。

○議長（星 俊和君） 企業長。

○企業長（高橋敏彦君） ありがとうございます。

先ほど答弁で申し上げましたとおり、危機管理については大変急ぐという気持ちはございますけれども、先ほどの経営状態、将来の財政状態を見ますと、大きな設備を設置しますと後々まで経営に影響しますので、慎重にならざるを得ないというのが正直なところでございます。将来的に水道料金等にはね返らないように慎重に判断をさせていただいて、その分、1年ほど時間を頂戴できればというふうに思っているところでございます。その上で早急に整備をさせていただきたいと思います。

以上です。

○議長（星 俊和君） 以上で、11番鈴木健二郎議員の質問を終結いたします。

日程第6 議案第1号 平成27年度岩手中部水道企業団水道事業会計補正予算（第1号）

○議長（星 俊和君） 日程第6、議案第1号、平成27年度岩手中部水道企業団水道事業会計補正予算（第1号）を議題といたします。

議案の朗読を省略し、直ちに説明を求めます。局長。

○局長（菊池明敏君） ただいま上程となりました議案第1号、平成27年度岩手中部水道企業団水道事業会計補正予算（第1号）についての提案の理由を申し上げます。

初めに、予算第2条、業務の予定量であります、(4)主要な建設改良事業のうち、配水及び給水施設整備事業の既決予定量に112万2,000円を増額し3億9,337万9,000円に、水道広域化促進事業の既決予定量から11億4,700万円を減額し31億7,606万4,000円にそれぞれ補正するものであります。

事業の詳細につきましては、資本的収入及び支出の説明で申し上げます。

次に、予算第3条の収益的収入及び支出であります、詳細は11ページの予算事項別明細書に記載しておりますので、あわせてごらんください。

水道事業収益につきましては、既決予定額に4億7,157万円を増額し、予算額を65億5,113万円にするものであります。

内容といたしましては、構成市町が岩手県市町村総合事務組合に負担した職員の退職手当負

担金のうち、当企業団に移籍した職員に係る負担金が確定したことによるものであります。

次に、水道事業費につきましては、既決予定額に7,004万2,000円を増額し、予算額を59億1,856万5,000円にするものであります。

内容といたしましては、人事院勧告等による人件費の調整のほか、派遣職員人数の確定による派遣職員給与費負担金の減額、企業債償還に係る利率見直し等による企業債利息の減額、水道広域化促進事業費の減額等に伴う支払い消費税の増額について、それぞれ補正するものであります。

次に、予算第4条の資本的収入及び支出であります。詳細は12ページの予算事項別明細書に記載しておりますので、あわせてごらんください。

資本的収入につきましては、既決予定額から14億2,516万4,000円を減額し、予算額を32億9,886万4,000円にするものであります。

内容につきましては、生活基盤施設耐震化等交付金内示額の減額等により、建設改良等企業債、構成市町出資金、国庫補助金の減額について、それぞれ補正するものであります。

次に、資本的支出につきましては、既決予定額から11億3,789万7,000円を減額し、予算額を57億7,847万5,000円にするものであります。

内容につきましては、人事院勧告等による人件費の調整のほか、生活基盤施設耐震化等交付金内示額の減額に伴う工事請負費等の減額、企業債償還に係る利率見直し等による企業債償還金の増額について、それぞれ補正するものであります。

なお、資本的収入額が資本的支出額に対して不足する額は24億7,961万1,000円であります。これを当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額2億708万7,000円と過年度分損益勘定留保資金22億7,252万4,000円で補填するものであります。

次に、予算第5条の議会の議決を経なければ流用することのできない経費であります。職員給与費の既決予定額に850万8,000円を増額し5億2,960万4,000円にするものであります。

この内容は、人事院勧告等による人件費の調整によるものであります。

以上、平成27年度補正予算（第1号）の概要を御説明申し上げましたが、よろしく御審議の上、原案のとおり議決賜りますようお願いいたします。

○議長（星 俊和君） これより質疑に入ります。質疑の方はありませんか。11番鈴木健二郎議員。

○11番（鈴木健二郎君） 12ページの資料でお聞きしたいんですが、補正予算がかなり減になっているということで説明があったように、生活基盤施設耐震化等の交付金内示額が減ったと

ということで、それは読めばそのとおりなんですけど、なぜこういうふうになったのかということについてですね。ずうっとこうなっておりますので、もうちょっと具体的に御説明いただけますか。

○議長（星 俊和君） 局長。

○局長（菊池明敏君） お答えいたします。

生活基盤耐震化交付金というのは、企業団を創設した時点では、広域化促進補助金という名称でございました。それが補助金ではなくて、県を経由してくる交付金という形に名称が変更になりまして、そういう形で交付されると。だから、県が配付をするという形になったものでございます。そのときに、今回、交付金になったときに一律で72%ほどの減額があったんですが、それを県の段階で交付する際に一律に72%の減額で全市町村に配付したということもございまして、こういう結果になったということでございます。

○議長（星 俊和君） 11番鈴木健二郎議員。

○11番（鈴木健二郎君） 結果がこういうふうになったというのはわかるんですが、県を経由してなった。それで、予定額に比べれば莫大な金額でしょう。14億ですね、総額で。収入ですよ。支出も結構ありますが、これで支障とか影響とか何かはないんですか。72%でやって、その結果、影響とかはないかということです。

○議長（星 俊和君） 局長。

○局長（菊池明敏君） 事業費としてはそれだけ減って、要するに予定していた分ができなかったというのは当然でございます。ただ、要望事項として、こちらからも一律じゃなくて、広域化のためにつくられた交付金である旨を県のほうにも言っておりますし、厚労省のほうにも陳情しておりますので、そこについては考慮するという回答はいただいております。

それを入れた形での今年の予算編成には反映されているというふうになっておりますが、今年、来年以降はそれで何とか確保できると思っております、1年分の減額分は後ろ倒しで何とか解決したいと考えております。

○議長（星 俊和君） よろしいですか。11番鈴木健二郎議員。

○11番（鈴木健二郎君） もうちょっとはつきりお願いしたいんですが、要するに、この減額された分は、国のほうでペイしますよということですか。違うんでしょう。だから、そういうふう聞こえたので、大丈夫なんですか、事業上。削ったままでいいのかということではないでしょうか。

○議長（星 俊和君） 局長。

○局長（菊池明敏君） もちろん後年度、後に残っている分の考え方ですが、事業費に要望していくということになります。

○11番（鈴木健二郎君） 後年度以降、要望していくと。

○局長（菊池明敏君） 来年度以降。そのため、水道ビジョンでも予算額というか、事業費としてこれだけ見込むということで事業を再編しておりますので、支障は来さないということで考えております。

○議長（星 俊和君） そのほかございませんか。（挙手する者なし）

○議長（星 俊和君） これをもって質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。討論の方はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（星 俊和君） これをもって討論を終結いたします。

これより議案第1号、平成27年度岩手中部水道企業団水道事業会計補正予算（第1号）を採決いたします。

本件は、原案のとおり決することに御異議ありませんか。（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（星 俊和君） 御異議なしと認めます。

よって、本件は原案のとおり可決されました。

日程第7 議案第2号 平成28年度岩手中部水道企業団水道事業会計予算

○議長（星 俊和君） 日程第7、議案第2号、平成28年度岩手中部水道企業団水道事業会計予算を議題といたします。

議案の朗読を省略し、直ちに説明を求めます。局長。

○局長（菊池明敏君） ただいま上程となりました議案第2号、平成28年度岩手中部水道企業団水道事業会計予算について、提案の理由を申し上げます。

初めに、予算第2条、業務の予定量について申し上げます。

給水戸数は8万8,500戸を予定しており、前年度当初予算と比較して900戸の増加を見込んでおります。

年間総配水量は2,470万7,213立方メートルを予定しており、前年度当初予算と比較して58万2,655立方メートルの減少を見込んでおります。

主要な建設改良事業であります。原水及び浄水施設整備事業を1億8,136万6,000円で、配水及び給水施設整備事業を4億5,979万5,000円、水道広域化促進事業を34億6,624万7,000円でそれぞれ実施しようとするものであります。

次に、予算第3条の収益的収入及び支出の予定額であります。水道事業収益を62億1,167万5,000円、水道事業費を59億9,635万4,000円としております。

21ページ以降に詳細を記載しておりますので、21ページをお開き願います。

水道事業収益のうち、給水収益は49億1,107万1,000円であり、水道事業収益の79.1%を占めております。

次に、22ページをお開き願います。

水道事業費では、原水及び浄水費として、各浄水場の運転管理業務委託のほか、施設の維持管理費や修繕費をそれぞれ計上しております。

23ページの配水及び給水費には、漏水調査業務委託や消火栓点検業務委託、漏水修繕等の経費を計上しております。

次に、24ページの業務費には、水道料金徴収業務委託料等の料金収納に係る経費、総係費には、岩手県市町村総合事務組合負担金や職員の研修費等の経費をそれぞれ計上しております。

そのほか、収益及び費用の内容につきましては、ここに記載したとおりであります。

1ページにお戻り願います。

予算第4条、資本的収入及び支出の予定額であります。資本的収入を34億6,991万5,000円、2ページ目に、資本的支出を58億4,597万5,000円としております。

26ページ以降に詳細を記載しておりますので、26ページをお開き願います。

資本的収入の主な内容は、建設改良等企業債14億7,070万円、構成市町出資金7億3,125万4,000円、国庫補助金9億920万円であります。

27ページの資本的支出であります。建設改良費のうち、原水及び浄水施設整備費では、大明神浄水場更新に伴う基本設計業務委託を実施するほか、各浄配水施設の状況を集中監視するための監視装置増設工事を施行しようとするものであります。

配水及び給水施設整備費では、平和橋配水管補正工事及び水道管移設補償工事等を施行しようとするものであります。

水道広域化促進事業費では、北上川浄水場、高圧受電設備更新工事のほか、経年管や経年施設の更新工事、バイパス管布設工事等を施行しようとするものであります。

営業設備費の主な内容といたしましては、公用車、ポータブル型超音波流量計、水質検査機器等の工事費であります。そのほか、収入及び支出の内容につきましては、ここに記載しているとおりであります。

以上の結果、1ページの予算第4条にお戻りいただきまして、資本的収入額が資本的支出額

に対し不足する額は23億7,606万円ですが、これを当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額2億550万4,000円と過年度分損益勘定留保資金21億7,055万6,000円で補填しようとするものであります。

2ページをお開き願います。

予算第5条、債務負担行為であります。北上川浄水場高圧受電設備更新工事につきまして、期間及び限度額をそれぞれ設定するものであります。

予算第6条、企業債であります。配水設備及び浄水設備事業として14億7,070万円を限度額とするものであります。

予算第7条、一時借入金であります。5億円を限度額とするものであります。

予算第8条、予定支出の各項の経費の金額の流用につきましては、第9条に定める経費であります職員給与費及び交際費以外の同一款内の間の流用をすることができるものとするものであります。

予算第9条、議会の議決を経なければ流用することのできない経費であります。職員給与費、交際費につきましては、それぞれ記載しております。

なお、職員給与費につきましては、9ページ以降の給与費明細書のとおりであります。

予算第10条、構成市町からの補助金につきましては、2,999万4,000円とし、国が定める繰り出し基準に基づき算出される企業債利息と児童手当の支給に対する繰出額等を記載しております。

予算第11条、棚卸資産購入限度額につきましては、6,691万1,000円とし、修理用資材及び水道メーターの購入に充てるものであります。

予算第12条、重要な資産の取得及び処分につきましては、水質分析機器でありますイオンクロマトグラフ分析計を取得しようとするものであります。

以上、平成28年度予算の概要について御説明申し上げましたが、よろしく御審議の上、原案のとおり議決を賜りますようお願い申し上げます。

○議長（星 俊和君） これより質疑に入ります。質疑の方はありますか。3番武田勝議員。

○3番（武田 勝君） 26ページの収入、5番の工事負担金が3億3,900万となって、配水管等移設工事負担金なんですけど、これはどういう工事でこういう収入になるのかをお聞きします。

○議長（星 俊和君） 工務課長。

○工務課長（及川賀生君） 御質問にお答えいたします。

工事負担金でございますが、来年度、北上川浄水場の高圧設備更新工事がございます。北上

川浄水場に関しましては、県の企業局と一緒に使っている施設でございまして、県の企業局の負担割合が50%、正確に申し上げますと48.5%となっております、その工事に対しての県の負担割合が3億3,900万円ほどとなっているものでございます。

以上です。

○議長（星 俊和君） そのほかございせんか。11番鈴木健二郎議員。

○11番（鈴木健二郎君） 21ページ、水道料金です。これは、花巻、紫波は激変緩和措置でやって少しずつお金をもらっているんですが、前年より予算は大きくなっています。その増によるものなのかということをお聞きします。

それから、23ページ、委託料の漏水調査及び消火栓の点検料についてです。これ、前年もお聞きしたと思うんですが、10年間で4.4%、有収率を改善するんだということでもありますので、その28年度の部分だろうというふうに思います。

それで、この漏水調査にどれほどかかるのか。それから、消火栓点検は全部やるのか、どの程度やるのか、区域を決めてやるのか。それから、今もいろいろと資料を見させてもらうと、紫波のほうが有収率が低いですね。これは施設の老朽化等があっているわけですが、ここを上げないとだめだなと。もちろんそういうつもりだと思いますが、去年まででも有収率が75になっているんですね、紫波は。とても低いんです。ですから、ここも含めて、28年度はどの程度改善されるんですかということをお聞きしたいと思います。

26ページの資本的収入及び支出、補正のところでもお聞きしましたが、要するに、建設改良、企業債14億、下の国庫補助金9億幾ら、結局は前年度で減った分をここで補うという形になるのでしょうか。これとはまた別なんでしょうか、そこをお聞きしたいです。

○議長（星 俊和君） 経営企画課長。

○経営企画課長（高橋誠雄君） 私のほうからは、給水収益のことについてお答えをします。

給水収益については、激変緩和は2年目ということで、その分の緩和は、今増加分で4,500万ほどの激変緩和で増収入になりましたが、一方におきまして、有収水量が減りましたので、その分で2,000万ほど減りましたので、差し引きの増減額というふうになっております。

続きまして、国庫補助金、資本的収入の26ページでございまして、これらの財源につきましては、前年度の72.5%関係も含めまして、それ以降は平成32年までの、国庫補助金が交付金事業に変わりましたが、その事業の中で調整していくわけですが、平成28年度におきましても、それも含めまして事業内容に取り込んだ上での歳入内訳となっております。

私からは以上です。

○議長（星 俊和君） 給配水課長。

○給配水課長（高橋卓也君） まず、委託料の中の漏水調査業務委託についてお答えいたします。

予算額で申し上げますと、漏水調査と消火栓の点検に係る予算額は、27年度、28年度の同額で4,700万ほどを見込んでおります。27年度は、26年度に比べまして1,300万ほど増額しておりますので、28年度も今年度並みで計上しているところです。

それから、消火栓点検につきましては、3市町にごございます消火栓全てを冬に入る前に全部、状況とか、冬前に凍らないように水抜き作業を行いますので、全部回ります。

それから、紫波町の有収率に関してのお尋ねでしたが、なかなか根本的には老朽管を更新していくしかないと思うんですが、漏水調査をやりながら、見つかったところは随時修繕を行っていきますけれども、なかなか現段階では大幅な増収は見通せないという状況ですので、少しずつでも現状維持、あるいはそれ以上を目指して維持管理をしていきたいというふうに思っております。

○議長（星 俊和君） 工務課長。

○工務課長（及川賀生君） まことに申しわけありませんでしたが、先ほどの武田勝議員からの質問の回答が間違えておりましたので、ここで訂正をさせていただきたいと思っております。

26ページでございますが、5の工事負担金についてでございますが、この工事負担金3億3,933万9,000円についてでございますが、これに関しましては、国・県・市町村等の道路改良工事、または下水道工事において、水道管が移設になる場合がございます。その移設補償費に関する負担金となっているものでございます。

訂正して報告いたします。

○議長（星 俊和君） 3番武田勝議員。

○3番（武田 勝君） 水道管があると、それはどこの水道管か。

○議長（星 俊和君） 工務課長。

○工務課長（及川賀生君） 水道管がある場所でございますが、例えば道路の中にありまして、下水道工事で同じ場所を掘る場合、どうしても工事に支障があつて、横によけなければならぬといった場合もございますし、農水省の場合ですと、水路の改良工事がございます。広くするとかいった場合に、水路にかけて水管橋が支障になる場合もございます。そういった場合の移設の工事負担金となっております。

以上です。

○議長（星 俊和君） 3番武田勝議員。

○3番（武田 勝君） そうすると、企業団の水道管を何か別な工事で移設する必要が出た場合に、それを企業団が移設する、その補償金ですということによろしいでしょうか。

○工務課長（及川賀生君） はい。

○議長（星 俊和君） そのほかございませんか。（挙手する者なし）

○議長（星 俊和君） これをもって質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。討論の方はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（星 俊和君） これをもって討論を終結いたします。

これより議案第2号、平成28年度岩手中部水道企業団水道事業会計予算を採決いたします。

本件は原案のとおり決することに御異議ありませんか。（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（星 俊和君） 御異議なしと認めます。

よって、本件は原案のとおり可決されました。

日程第8 議案第3号 岩手中部水道企業団人事行政運営等の状況の公表条例の一部を改正する条例

○議長（星 俊和君） 日程第8、議案第3号、岩手中部水道企業団人事行政運営等の状況の公表条例の一部を改正する条例を議題といたします。

議案の朗読を省略し、直ちに説明を求めます。局長。

○局長（菊池明敏君） ただいま上程となりました議案第3号、岩手中部水道企業団人事行政運営等の状況の公表条例の一部を改正する条例について、提案の理由を申し上げます。

この条例は、地方公務員法の一部改正に伴い、新たに規定された人事評価及び退職管理について、これを公表する項目に加えるとともに、勤務評定に係る文言を削除しようとするものであります。

なお、施行日は、平成28年4月1日からとし、平成28年度以降の年度における人事行政運営等の状況の公表から適用するものであります。

よろしく御審議の上、原案のとおり議決を賜りますようお願い申し上げます。

○議長（星 俊和君） 総務課長。

○総務課長（瀬川光雄君） ただいま議案第3号が上程になりましたけれども、一部訂正をさせていただきますと思います。

条例文2行目、岩手中部水道企業団人事行政運営等の状況の公表条例とありますが、「条

例」という言葉が2度続いておりますので、「条例」を一部削除させていただきたいと思ます。

以上でございます。

○議長（星 俊和君） おわかりですか。

これより質疑に入ります。質疑の方はありますか。11番鈴木健二郎議員。

○11番（鈴木健二郎君） 公務員法の改正によるものでありますけれども、公表するということですね。人事評価の状況、給与の状況をずうっと公表しなければならない。この公表はどの程度の公表、どういうふうな公表の仕方をするのかということ。

それから、人事評価に関してですから、この評価の内容はどういうふうなものなのかですね。個人情報も入るのかどうか、例えば何を評価するんですか、人事評価は。勤務成績評価はなくなったということなんですが、その辺の兼ね合いをお聞きしておきたいというふうに思います。

それから、新しく加わった退職管理の状況、退職管理というのは中身何なののでしょうか。まず、この変更になった部分だけお聞きしておきます。

○議長（星 俊和君） 総務課長。

○総務課長（瀬川光雄君） ただいまの御質問にお答えいたします。

まず、人事評価の中身でございますけれども、現在、国の総務省のほうから、地方公務員法の改正に伴いまして、ガイドライン等の通知が参っております。この総務省からのガイドライン、あるいは構成市町のほうでも、この件について、人事評価について検討してございますので、国からのガイドライン、あるいは構成市町の動向を見ながら人事評価のやり方、方法等を検討しているところであります。よって、公表する内容につきましても、構成市町の動向を見ながら対応してまいりたいと考えております。

それから、退職管理の内容につきましてでございます。地方公務員法の中で、主に地方公共団体、我々一部事務組合なんですけど、退職した元職員による働き方を検証する。それから、元職員が再就職した場合には、その再就職の情報の届け出を義務づける等の規定がありまして、それらの退職後の元職員の状況を適切に管理する措置を講じなさいよというのが退職管理の地方公務員法上の内容でございます。

○議長（星 俊和君） 11番鈴木健二郎議員。

○11番（鈴木健二郎君） これ、公表しなければならないですから、強制ですよ。企業長は、公表しなければならない、職員の情報別に。構成市町の状況を見てということなんですけど、きょう採決するんでしょう、賛成か反対か。今の状況ですと、ちょっと中身がさっぱりわから

ないまま、いいですよということには私はならないです。これは人事評価に関して、なぜ公表しなくちゃならないんですかということもわかりません、理由が。誰に公表するのかですね。そこを当局はどういうふうに把握されているのか、しかも退職された方のそうしたものを公表するということは、ここは市職員ではありませんので、企業団の職員なんです、準ずるわけでしょう。同じように扱われるんでしょう。となれば、私はちょっと判断できないんですが、ちょっと困ります。今、具体的にはわかりません。

議長、この場合はどうするんですか。

○議長（星 俊和君） 総務課長。

○総務課長（瀬川光雄君） 改正された地方公務員法が本年の4月1日に施行になるわけですが、人事評価あるいは、退職の状況についての公表は、実際は28年度で退職管理、あるいは人事評価が施行するわけですが、その結果、公表される時期は29年10月になるんです。ですから、その間、公表の内容につきましてはまだ1年以上ありますので、構成市町を参考にしながら公表する内容を決めていきたいと思っております。今考えられることは、退職管理につきましては、退職者の再就職の先というところか、当然、個人名は出すことはできないと思っておりますけれども、退職者が5名ならば、5名がどういうところに再就職されたかどうかという程度の公表になろうかと考えているところでございます。

○議長（星 俊和君） 11番鈴木健二郎議員。

○11番（鈴木健二郎君） 公表内容がちょっと明確にならないわけですので私は賛成はしませんが、1年以上あるわけですね、具体的には。そのときに出すということにはならないんですか。今、この条例は決めなくちゃだめなんですか、それをお伺いします。

○議長（星 俊和君） 総務課長。

○総務課長（瀬川光雄君） 地方公務員法の改正に伴いまして、先ほども申し上げましたが、改正された地方公務員法が本年4月1日に施行されます。その中で、人事評価制度の導入を規定されていますし、公表する内容についても、改正された地方公務員法に載っておりますので、これまた公表につきましても、本年4月1日に施行されるということですので、我々、地方公共団体、一部事務組合としては、国の法律に従いまして改正して、適切に運用しなければならないというふうに思っております。

○11番（鈴木健二郎君） これはきちっと賛成・反対とるの。

○議長（星 俊和君） 休憩いたします。

午後 4時17分 休憩

午後 4時30分 再開

○議長（星 俊和君） それでは再開いたします。

先ほど11番議員から質疑がありました。

その結果、総務課長からいろいろ説明がありましたが、議題として取り上げた以上、採決に入ります。

よろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）

○議長（星 俊和君） これより討論に入ります。討論の方はありませんか。11番鈴木健二郎議員。

○11番（鈴木健二郎君） ただいま上程されました議案第3号、岩手中部水道企業団人事行政運営等の状況の公表条例の一部を改正する条例に反対であります。

法律はそのとおりでありますけれども、公表が強制される、しかも公表内容が明確になっていない。現時点で、私は賛成するわけにはまいりません。というのは、内容が不明確なまま、それにただ同意することは、住民に対する説明責任がつきませんので、法律はできたんでしょうけれども、私議員としては賛成しかねるということであります。できるのであれば、今回上程は撤回して、しかるべき臨時議会等をもって、その内容等が明確になった段階で諮るべきだというふうに考えますが、そういう観点から、今回の条例には反対であります。

○議長（星 俊和君） ほかに討論の方はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（星 俊和君） これより採決いたします。

議案第3号、岩手中部水道企業団人事行政運営等の状況の公表条例の一部を改正する条例を採決いたします。

反対意見がありましたので、起立により採決いたします。

本案を原案のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。（賛成者起立）

賛成

1番	松田	昇君	2番	高橋	修君
5番	若柳	良明君	6番	高橋	勤君
7番	伊藤	源康君	8番	及川	誠君
9番	佐々木	純子君	10番	鷹木	嘉孝君

反対

3番	武田	勝君	4番	星	敦子君
11番	鈴木	健二郎君			

○議長（星 俊和君） 着席願います。

起立多数であります。

よって、本件は原案のとおり可決することにいたしました。

暫時休憩いたします。

午後 4時34分 休憩

午後 4時38分 再開

○議長（星 俊和君） 再開いたします。

先ほど訂正を議長の判断で許しましたが、訂正があるという工務課長からの申し出がありました。その発言を許してよろしいですか、それを諮ります。（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（星 俊和君） わかりました。

それでは、工務課長、訂正をお願いいたします。

○工務課長（及川賀生君） 議案第2号予算でございますが、先ほど武田勝議員から御質問のあった件を御説明いたしました。それについて訂正をさせていただきます。

予算書26ページ、資本的収支及び支出の5番、工事負担金についての御質問でございますが、私の回答は、当初、北上川浄水場高圧設備更新工事の県企業局の負担金50%ほどがこの負担金であると御説明いたしました。その後、訂正をして、道路工事、下水道工事等によって移設するための補償費として御説明いたしました。それを訂正させていただいて、北上川浄水場高圧設備更新工事の負担金と道路改良工事、下水道工事等の工事補償金、両方含まれた金額で3億3,900万円ほどとなっております。

以上、訂正させていただきます。大変申しわけございませんでした。

以上です。

○議長（星 俊和君） 暫時休憩いたします。

午後 4時40分 休憩

午後 4時41分 再開

○議長（星 俊和君） 再開いたします。

ただいまの訂正に御異議ございませんか。（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（星 俊和君） 異議なしという声がありました。

それでは、異議なしと認めます。

暫時休憩いたします。

午後 4時41分 休憩

午後 4時42分 再開

○副議長（若柳良明君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

ここで、議長から特に発言を求められておりますので、この際、これを許します。議長。

○議長（星 俊和君） 第6回議会定例会終了に当たり、一言御挨拶を申し上げます。

まずもって、議員各位の御協力により、今期定例会に提案されました全議案の審議が終了しましたことにお礼を申し上げたいと思います。

御承知のように、北上市議会議員の任期が本年3月31日をもちまして満了となり、現在の議員構成での企業団議会定例会は本日が最後となりました。

引き続き出馬される各位におかれましては、万全の体制のもとに全員が当選をなされることを願うものであります。

この4年間の議会運営に御協力を賜りました議員各位及び企業長を初めとする構成団体の市長、町長、職員の皆様、企業団職員の皆様に衷心より厚くお礼を申し上げる次第でございます。

また、この4年間において、念願でありました4団体の水道事業の統合に際し、議長として携わる機会をいただきましたことに、改めまして感謝申し上げます。

当企業団も統合して2年が経過しようとしています。施設の老朽化や社会経済状況の変化に伴い、水道事業を取り巻く環境はまだまだ厳しいものがございます。本日、御参会の皆様方の御活躍により、岩手中部水道企業団創立の所期の目的が達成されますよう御祈念申し上げ、任期最後の議会閉会に当たっての御挨拶といたします。ありがとうございました。

○副議長（若柳良明君） 暫時休憩いたします。

午後 4時45分 休憩

午後 4時45分 再開

○議長（星 俊和君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

○議長（星 俊和君） 以上をもって本日の日程は全部終了いたしました。

これをもって第6回岩手中部水道企業団議会定例会を閉会いたします。

どうもありがとうございました。

午後 4時45分 閉会

地方自治法第123条第2項の規定によりここに署名する。

岩手中部水道企業団議会議長 星 俊 和

岩手中部水道企業団議会議副議長 若 柳 良 明

岩手中部水道企業団議会議員 鈴 木 健 二 郎

岩手中部水道企業団議会議員 松 田 昇